



価格転嫁方面
Price pass-through due to cost
JAM



持続可能な
ものづくりへ

ものづくり産業の

健全な成長、発展に向けて

「労働」と「製品」の価値が

正しく評価される社会へ

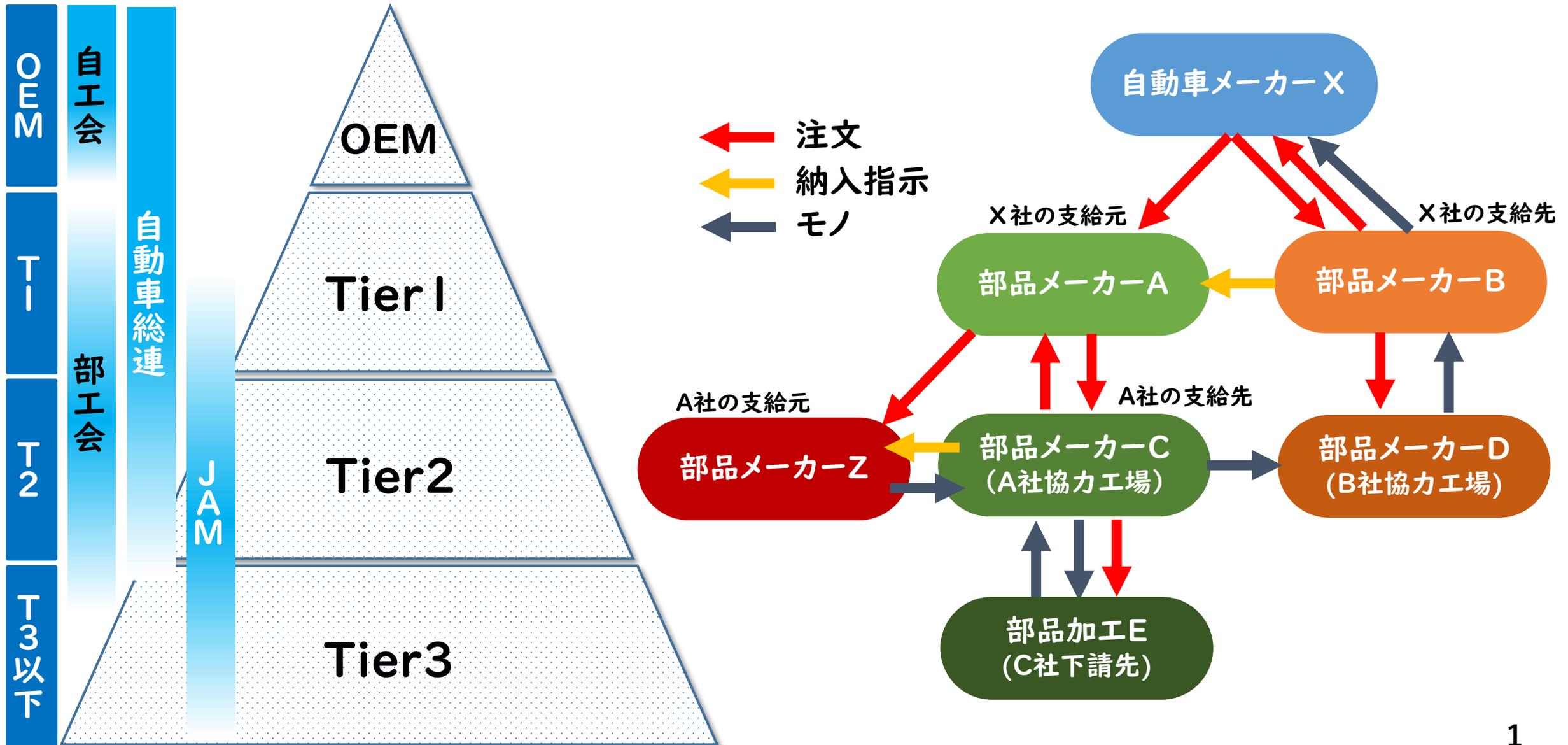
自動車総連「取引適正化オンラインセミナー」

ティアの深い取引先から見た 自動車産業の実態



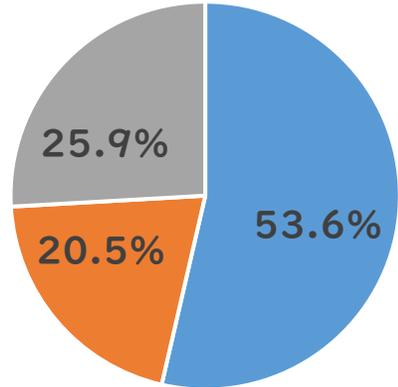
Japanese
Association of Metal,
Machinery, and
manufacturing Workers

ティア構造とJAMの構成組織について



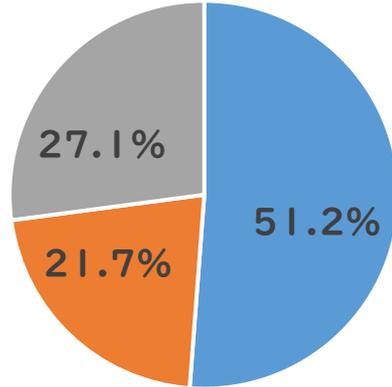
JAMの輸送用機械器具製造業の状況

売上高



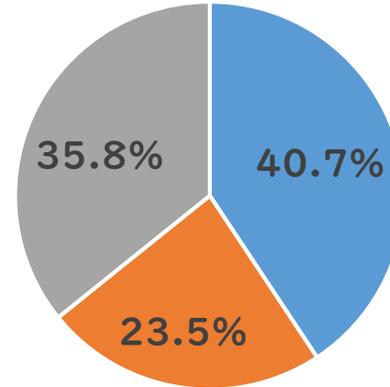
■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

生産量

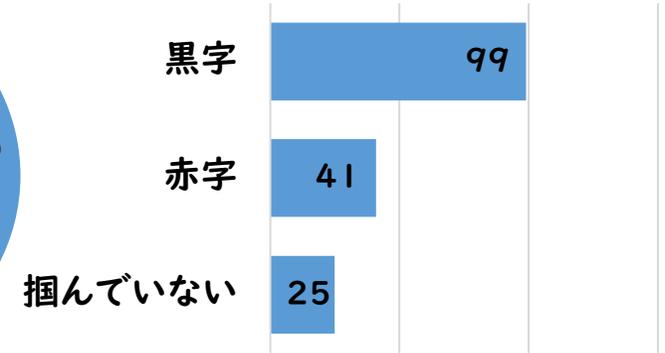


■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

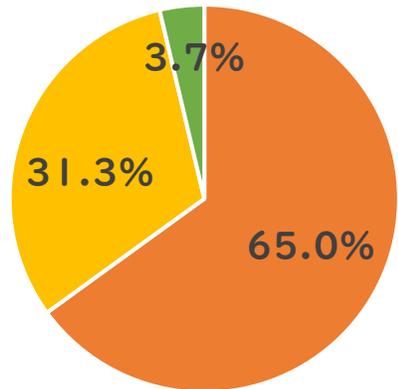
経常利益



■ 増加 ■ 不変 ■ 減少

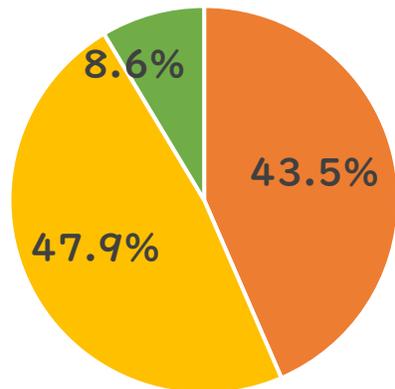


原材料価格の見通し



■ 上昇 ■ 不変 ■ 低下

製品価格の見通し



■ 上昇 ■ 不変 ■ 低下

価格転嫁の状況について(受注側・全般)

単組数

	全体	ほぼ全部	半分程度	1/3未満	未把握	未転嫁	無回答
自動車	113	9	8	5	22	1	68
300人未満	65	6	2	3	9		45
300人以上	48	3	6	2	13	1	23

平均賃上げ額

	全体	ほぼ全部	半分程度	1/3未満	未把握	未転嫁	無回答
自動車	12,567	14,331	16,690	10,524	13,786	17,920	11,526
300人未満	11,014	12,690	16,126	8,700	12,558		10,409
300人以上	14,671	17,614	16,878	13,259	14,636	17,920	13,712

JAMにおける適正取引の実態

- 他社価格をちらつかして複数回の交渉されることもあったが、最近は一発決定も出てきており、改善傾向にある。
- 受注後の**合理化は当たり前**の習慣がある（年2～3%、5%要請もある）。
- 原材料、海上運賃、エネルギー費については、**どのOEMも価格転嫁が進んでいる**印象である。
- 契約時に為替変動調整を入れているOEMも一部ある。一時的な調整支払いのOEMもあったが、今後も継続した**為替転嫁の要請が必要**である。
- 労務費の価格転嫁はこれからの印象である。
- 習慣として、受注後の合理化（コストダウン）は残っている。
- 自主的研究活動に参加するのは名誉なこととなっており、成果をアピールしなければならぬプレッシャーがあり、過度な人員配置やレベルの高いアイテム抽出/改善活動への負担もある。
- 契約時の**見積台数を下回る際の補償がない**。変動閾値が高く補償対象とならない。
- 公正取引委員会の**価格転嫁に関する指針や社名公表の効果は高く、対応が変わった**。

- エネルギーコストは設備単位の消費電力と稼働率の算出をはじめ、**膨大なエビデンス**を求められる。
- 下請法の対象取引のみ価格転嫁要請**に対応するよう指示が出ていると言われた。
- 必要な価格転嫁を認めてもらえず、**供給停止を続けたところ転嫁が受け入れられた。**
- 昨年末に価格転嫁を要請**、これまでは受け取ってもくれなかったが受領された。「回答は3カ月待ってくれ」とのことだったが、**4月現在も回答無し。**
- 受注計画数量に達することなく、数量見直しの度に減少するが、単価の見直しはない。
- 価格改定の要請をしたところ、**経産省から価格の引き上げについて「上げるな」と通達を受けている**とのこと。議員を通じて確認したところ、そのような事実なし。**購買担当者の独自発言の可能性あり。**
- 発注先から**労務費の価格転嫁を受け入れる旨の示達を受けている。**
- 発注先への**価格転嫁率(額)**と、**資材調達先の価格引き上げで板挟み状態**である。
- 今なお会社側は「**価格転嫁すれば失注する**」と強く主張しており、**取引先と担当者名を聞き出したい。**
- 労務費の転嫁を求める取引慣行は存在しない**と社長が転嫁を求めさせない。

見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。